

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年2月5日

上場会社名 カネヨウ株式会社

上場取引所 大

コード番号 3209 URL <http://www.kaneyo-net.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 土田 外志建

問合せ先責任者 (役職名) 取締役職能担当

(氏名) 山成 哲央

TEL 06-6227-6510

四半期報告書提出予定日 平成22年2月5日

配当支払開始予定日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	7,219	11.5	73	90.2	35		38	515.0
21年3月期第3四半期	8,153		38		10		6	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	2.77	
21年3月期第3四半期	0.45	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	5,967	636	10.7	45.31
21年3月期	5,492	638	11.6	45.50

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 636百万円 21年3月期 638百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期		0.00		0.00	0.00
22年3月期		0.00			
22年3月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,400	9.5	70		20		19		1.35

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、3ページ「定性的情報・財務諸表等」4.その他をご覧ください。]

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

会計基準等の改正に伴う変更	無
以外の変更	無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	14,066,208株	21年3月期	14,066,208株
期末自己株式数	22年3月期第3四半期	23,186株	21年3月期	22,002株
期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第3四半期	14,044,065株	21年3月期第3四半期	14,049,963株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の業績予想につきましては、平成21年10月22日に公表しました「業績予想の修正等に関するお知らせ」の内容から変更しております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因によって異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項について、及び上記1に係る業績予想の具体的修正内容は、3ページ「定性的情報・財務諸表等」3.業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融危機の影響を受けた景況悪化に底打ち感があり、回復の兆しが見られるものの、依然として雇用情勢は厳しく、個人消費の低迷は厳しさを増しており、政権交代による政策見直しの影響により景気の先行き不透明感も加わり、厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社では前期に引き続き新中期経営計画の基本方針に沿った東京市場の集中的攻略を始めとし、営業力・提案力の充実等、「収益力の再構築」に引き続き取り組んでまいりました。売上高は、上述の如く一般消費者の購買意欲は未だ回復せず、当初予想を大幅に下回ることとなりましたが、引き続き利益率の改善、経費の圧縮等に努め利益面では第1四半期、第2四半期同様、当初予想を上回ることが出来ると同時に、前年対比大幅に改善することが出来ました。その結果、当第3四半期累計期間の売上高は72億19百万円(前年同期比88.5%)、営業利益73百万円(前年同期比190.2%)、経常利益35百万円(前年同期10百万円の損失)、四半期純利益38百万円(前年同期比615.1%)となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末の54億92百万円に比し4億74百万円増加し、59億67百万円となりました。増加の主因は、季節的な要因による商量の増加に伴い、受取手形及び売掛金の売上債権が5億9百万円増加したためであります。一方、負債合計は、前事業年度末の48億53百万円に比し4億77百万円増加し、53億30百万円となりました。増加の主因は、売上債権の増加理由と同様に、支払手形及び買掛金の仕入債務が4億9百万円増加したためであります。また、純資産合計は、前事業年度末の6億38百万円に比し、2百万円減少し、6億36百万円となりました。減少の主因は、四半期純利益を38百万円計上したものの、輸入為替予約の時価評価による繰延ヘッジ損益が21百万円悪化したこと、及びその他有価証券評価差額金が20百万円悪化したためであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期における現金及び現金同等物の残高は5億5百万円となり、前事業年度末と比較して1億61百万円の増加となりました。

営業活動の結果得られた資金は1億38百万円(前年同期比30.4%増)となりました。主な要因は売上債権が5億9百万円増加したものの、仕入債務が4億9百万円、たな卸資産が1億59百万円それぞれ増加したことによるものであります。

投資活動の結果使用した資金は9百万円(前第3四半期は9百万円の使用)となりました。主な要因は有形固定資産の取得によるものであります。

財務活動の結果得られた資金は31百万円(前第3四半期は1億67百万円の使用)となりました。主な要因は長期借入金の借入によるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績につきましては、雇用情勢、給与水準の悪化は未だ回復せず、個人消費も依然として低迷しており、売上高は当初予想を下回ることとなりました。しかしながら、利益率の改善、経費の圧縮を図ることにより営業利益、経常利益、四半期純利益については当初予想を上回っております。以上のような状況から売上高については当初予想を下回る事が確実な情勢ながら、利益面ではほぼ達成出来る見通しで、現時点において通期の業績に関しましては、売上高94億円、営業利益70百万円、経常利益20百万円、当期純利益19百万円を予想しております。

4. その他

(1)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切り下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積もり、簿価の切り下げを行う方法によっております。

固定資産の減価償却の算定方法

定率法を算定している資産については、年度予算に基づく年間償却予定額を期間按分して算定する方法によっております。

(2)四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	505,508	244,251
受取手形及び売掛金	3,570,676	3,061,354
商品	825,907	985,470
その他	82,713	198,863
貸倒引当金	29,311	18,413
流動資産合計	4,955,494	4,471,525
固定資産		
有形固定資産	571,612	574,463
無形固定資産	7,707	10,429
投資その他の資産	432,376	435,780
固定資産合計	1,011,696	1,020,673
資産合計	5,967,191	5,492,199
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,672,514	2,263,316
短期借入金	1,955,264	2,100,000
未払法人税等	1,867	2,586
賞与引当金	5,050	11,300
その他	258,100	219,368
流動負債合計	4,892,796	4,596,572
固定負債		
長期借入金	176,778	-
役員退職慰労引当金	21,630	19,845
その他	239,655	236,836
固定負債合計	438,063	256,681
負債合計	5,330,860	4,853,254
純資産の部		
株主資本		
資本金	703,310	703,310
資本剰余金	138,353	138,353
利益剰余金	446,819	485,764
自己株式	2,019	1,962
株主資本合計	392,824	353,936
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	31,659	11,275
繰延ヘッジ損益	1,965	23,083
土地再評価差額金	273,201	273,201
評価・換算差額等合計	243,506	285,008
純資産合計	636,331	638,944
負債純資産合計	5,967,191	5,492,199

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	8,153,665	7,219,780
売上原価	7,642,222	6,705,490
売上総利益	511,442	514,290
販売費及び一般管理費	472,814	440,810
営業利益	38,627	73,480
営業外収益		
受取利息	2,492	1,578
受取配当金	1,410	821
受取賃貸料	17,550	13,860
その他	304	300
営業外収益合計	21,756	16,559
営業外費用		
支払利息	56,524	41,620
賃貸収入原価	13,928	13,031
その他	661	260
営業外費用合計	71,114	54,912
経常利益又は経常損失()	10,729	35,127
特別利益		
貸倒引当金戻入額	17,812	4,567
特別利益合計	17,812	4,567
税引前四半期純利益	7,082	39,695
法人税、住民税及び事業税	750	750
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	750	750
四半期純利益	6,332	38,945

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	7,082	39,695
減価償却費	7,812	7,573
無形固定資産償却費	3,009	2,721
長期前払費用償却額	1,527	1,009
貸倒引当金の増減額(は減少)	18,258	163,274
賞与引当金の増減額(は減少)	7,350	6,250
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	6,300	1,785
受取利息及び受取配当金	3,902	2,399
支払利息	56,524	41,620
売上債権の増減額(は増加)	716,154	509,322
破産更生債権等の増減額(は増加)	774	159,943
たな卸資産の増減額(は増加)	78,581	159,562
仕入債務の増減額(は減少)	672,736	409,197
その他	73,427	38,960
小計	162,111	180,822
利息及び配当金の受取額	3,793	2,315
利息の支払額	58,493	43,353
法人税等の支払額	938	945
営業活動によるキャッシュ・フロー	106,472	138,839
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,518	1,590
無形固定資産の取得による支出	1,818	-
投資有価証券の取得による支出	1,297	-
長期貸付金の回収による収入	728	665
その他	4,715	8,268
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,621	9,192
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	120,000	212,500
長期借入れによる収入	-	270,000
長期借入金の返済による支出	37,500	25,458
自己株式の取得による支出	383	56
その他	9,511	313
財務活動によるキャッシュ・フロー	167,395	31,672
現金及び現金同等物に係る換算差額	294	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	70,839	161,318
現金及び現金同等物の期首残高	498,121	344,189
現金及び現金同等物の四半期末残高	427,282	505,508

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。